

第 3 回 鉄軌道サービス部会の開催結果について

1. 日時 令和 5 年 1 月 12 日（木） 15 時 00 分～
2. 出席者（敬称略）

所属・役職	氏名	備考
関西大学経済学部 教授	宇都宮 浄人	部会長
富山大学都市デザイン学部 教授	本田 豊	
西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	
あいの風とやま鉄道株式会社 代表取締役社長	日吉 敏幸	
富山地方鉄道株式会社 専務取締役	新庄 一洋	
万葉線株式会社 代表取締役専務	楠 達男	

3. 概要

「地域交通ネットワークの目指すべき姿」の整理に向け、鉄軌道や駅の位置づけについて意見交換を行い、部会として次のとおり取りまとめた。

- ・ 県内全ての市町村に鉄道駅があるという富山県の特徴を生かし、鉄軌道を「骨格」、市町村が立地適正化計画などに位置付けた鉄道駅を「拠点」とし、地域交通サービス全体の最適化を図る
- ・ 「骨格」「拠点」としてウェルビーイングの向上につながるサービスの提供に向け、関係者間の役割分担・責任分担の協議を進める
- ・ 鉄道駅に地域の拠点としての機能を持たせ、「地域の財産」として活用していく
- ・ 「骨格」「拠点」としての機能を発揮させるため、市町村の都市政策・まちづくりとの連携・整合を図る

○意見交換（主なもの）

- ・ 鉄軌道は、環境にやさしく、大量輸送や定時性、速達性などの観点から、移動のクオリティが優れている。
- ・ 15市町村すべてに鉄道が走る富山県の強みを生かし、地域交通ネットワークの「骨格」として鉄軌道にふさわしいサービス水準をもたせるべき。
- ・ 現行の事業者のサービス水準の上乗せとなるサービス水準については、自治体が主体的に検討してほしい。
- ・ 地域の実態によっては、鉄道駅は交通結節点以外の機能を持つことも大事。ただし、市町村のまちづくりと一体的に進めなければうまくいかない。
- ・ 市町村が策定する立地適正化計画に鉄道駅を位置づけ、都市機能誘導区域等を含めるなど、鉄道を生かすまちづくりによって好循環が生まれるようにしていく必要がある。
- ・ 各地域が求める鉄道のサービス水準や内容、また、まちづくりにおける鉄道駅の位置付け等について、市町村にヒアリングしてみてもどうか。
- ・ 交通部局だけでなく、医療、福祉、教育、環境、地方創生、さらには道路部局など他分野との予算の連携・後押しを進めていくべき。